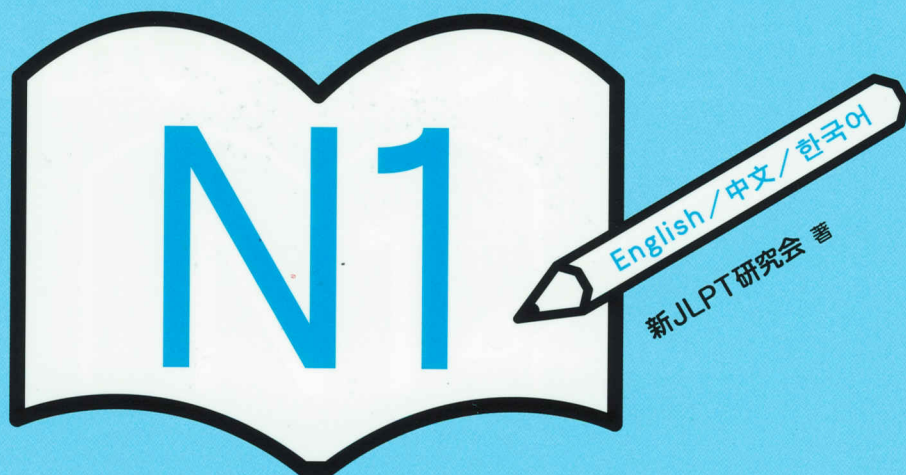


日本語能力試験 Vol. 模試と対策 2



The Japanese Language Proficiency Test
Practice exams and strategies N1
日语能力考试 模拟试题 与 考试对策 N1
일본어능력시험 모의시험 및 대책 N1

模擬試験 2 回分

ひとりでもしっかりできる

対策 + **模試** + **解説**
でコツを学ぶ で実力チェック で弱点を強化

英語・中国語・韓国語の翻訳付き

CD 2枚付き

新しい「日本語能力試験」N1について

※この内容は『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集 N1、N2、N3編』（独立行政法人 国際交流基金、財団法人 日本国際教育支援協会）の情報をもとに作成しています。

▶ 試験日

年2回（7月と12月の初旬の日曜日）

※海外では7月の試験を実施しない国・地域があります。

▶ レベルと認定の目安

試験のレベルは5段階（N1～N5）です。

1 級 ➡

N1…旧試験の1級よりやや高めのレベルまで測定。

合格ラインは旧試験の1級とほぼ同じ。

▶ 試験科目と試験時間

N1	言語知識（文字・語彙・文法）・読解	聴 解
	110分	60分

▶ 合否の判定

「得点区分別得点」と、それらを合計した「総合得点」の二つで合否判定を行います。

得点区分ごとに基準点が設けられており、一つでも基準点に達していない場合は、総合得点が高くても不合格になります。

N1	言語知識（文字・語彙・文法）	読 解	聴 解
0～180点	0～60点	0～60点	0～60点

試験日、実施地、出願の手続きのしかたなど、新しい「日本語能力試験」の詳しい情報は、日本語能力試験のホームページ <http://www.jlpt.jp> をご参照ください。



約10分

問題11 次のAとBの2つの文章を読んで、後の問いに対する答えとして、最もよいものを1・2・3・4から一つ選んでください。

A

見慣れた「風景」がそこにあるだけで、人は気分が落ち着き、安心できる。大きな災害や不幸に見舞われたときこそ変わらないものがあつた。

「震災の犠牲者を悼む」「被災者を支援したい」…。こんな思いは、もちろん大切だ。「無駄な電気は使わない」という節電への協力も義務である。しかし、^{じしゆく}（注1）自粛も行き過ぎると社会や経済の活力を削ぎ、被災地の支援さえもできなくなってしまう。

被災地以外の大学や学校まで卒業式や入学式を取りやめたり、延期したりするのが果たして妥当だろうか。「不要不急だから」という理由で、多くの人にとって大切な思い出となる行事を奪うのは、やり過ぎだろう。

できるだけ普段と変わらない行動を続けることで、不安や無力感を吹き飛ばし、被災した人たちを支援していきたい。

（「広がる自粛『普段どおり』で支援したい」msn産経ニュース
2011年4月8日付記事 <http://sankei.jp.msn.com/economy/>による）

B

東日本大震災に直面し、各企業や自治体・公的機関などでお花見やイベントの^{じしゆく}自粛が相次いでいます。しかし、形式的に^{じしゆく}自粛することが、本当に復旧・復興に役立つかは良く考えなければならないと思っております。

お花見の時期にあつて、お花見の^{じしゆく}自粛はすべきではないと考えます。お花見をすることが問題なのではなく、その行い方が問題なのです。

^{しゆくしゆく}粛々と、黙々とということでもなく、また、節度や礼節といった（注2）肩ひじ張ったものというよりも、一人ひとりが祈りと願いを込めて、それぞれの人のそれぞれの祈り方、願い方で、うつむかず空に映える桜を見上げてお酒を酌み交わすことは、日本を元気に、桜の下に皆がひとつになって明るい光で包み合う身近で尊い行為だと思ひます。

（戸村智憲「お花見などの自粛をしない、という復興支援のあり方」共同通信PRワイヤー
2011年4月2日付記事 <http://prw.kyodonews.jp/>による）

（注1）^{じしゆく}自粛：自分から進んで行動を控えめにしたり、やめたりすること

（注2）肩ひじ張った：気負った、肩に力が入った



63 AとBのどちらにも触れられている内容はどれか。

- 1 震災後のイベントが経済に与える影響
- 2 震災後のイベントの延期
- 3 震災後のイベントと復旧活動
- 4 震災後のイベントの行い方

64 イベントの自粛^{じしよく}について、Aの筆者とBの筆者はどのような立場を取っているか。

- 1 AもBも、明確にしていない。
- 2 AもBも、批判的である。
- 3 Aは批判的であるが、Bは明確にしていない。
- 4 Aは明確にしていないが、Bは批判的である。

65 被災地への支援について、Aの筆者とBの筆者はどう述べているか。

- 1 AもBも普段通りの生活を送ることで、被災者の不安を取り除くことができると述べている。
- 2 AもBも明るく元気に過ごすことで、無気力さを吹き飛ばすことができると述べている。
- 3 Aは変わらない生活を送ることで、Bはうつむかず前向きになることで被災者を支援することができると述べている。
- 4 Aは震災で不安な気持ちになるのは仕方ないと述べ、Bは祈りを込めて黙々と酒を酌み交わすのがよいと述べている。